

第2回循環制御研究会記録

会 期 昭和56年 5月13日 9:00~15:00
会 場 島根県松江市県民会館

経 過 報 告

会 長 高 折 益 彦*

第2回循環制御研究会は、五月晴れのもと、昭和56年5月13日島根県松江市県民会館において開催された。

午前9時の開場とともに、160名の入場者があり、受付に予想以上の手間取りを生じたため、開会の辞が、9時10分に述べられ、ただちに自由演題の発表に移った。まず、帝京大学多治見氏が、プロスタグランディン拮抗薬を、処置しておくことによりドーパミンの心、血管系、なかんずく血管系への収縮作用が、増強されることを発表された。これに対して、拮抗薬により、プロスタグラディンの血管拡張作用が、抑制されるためにドーパミンの血管収縮作用が、増強されるのではないかと発言があった。徳島大学齊藤氏の、麻酔中に発生した冠スパズムの報告に対して、治療上の観点から、かなりの検討がなされたが、そのなかで、ノルエピネフリンは、かえって冠スパズムを誘発する可能性を有するものの、低血圧時には、冠拡張薬の併用とともに、冠血流量増加に対して、不可欠のものと思われ、今後臨床において、考慮すべきものと思われた。また、循環器病センター生理部門の岡田氏が、局所灌流低下に対して、どんな神経的調節がなされるのか、冠血流、ならびに腎血流について、研究された結果を発表された。

その結果、局所の血流低下状態を伝える、中枢へのインパルスは、求心性迷走神経で、中枢からの反応伝達は、主として交感神経を介しているが、案外、後者の反応が、速やかでないことが注目された。

自由演題の後半は、病態生理解析の手技が発表された。すなわち、循環器病センターの上藤氏は、開心術中に、冠静脈洞に質量分析計カテーテルを、経静脈的に挿入しておき、手術後に、アルゴンガス吸入を行い、冠血流量を比較的頻回に測定する方法を発表された。また、川崎医大伯耆氏は、最小範囲60~180 μm の部位の血流流速を、レーザードプラー法により測定し、1本の冠動脈について、軸流部から壁流部までのあいだの、血流速度分布を、詳細に報告された。後者は、いまだ臨床応用に至っていないが、冠動脈硬化症の発生の病態解明において、利用されるであろうし、また、さらに進んで、冠血管アンギオグラフィーを助ける臨床診断手段になるものと期待された。以上の講演は、手技面でも研究目的についても、詳細な解説がなされていて、会場での討論も十分になされたことは、やはり、このような研究会の特色といえよう。

広島大 入内島十郎教授(生理学)による特別講演「循環中枢」は、11時から1時間に、わたり行われ、解剖学的な立場をふまえて、詳細な生理学

* 川崎医科大学麻酔科

的追求がなされた。結論的に、特定な部位を循環中枢としうるものでなく、反応と制御を、繰り返す一連の連合調節機構が、これにあたるものと述べられ、聴衆に多大の感銘を与えられた。

特別講演後、昼食をはさんで、北里大学 田中亮教授（麻酔科学）司会のもとに、“ニトログリセリンによる血圧調節”なるパネルディスカッションが開かれた。そして、基礎、臨床まじえて5演者によって、ニトログリセリンの全身血管に及ぼす作用について、検討がなされた。新潟大学 今井氏（薬理学）が、ニトログリセリンの血管拡張の作用機序について、詳細に述べられた後、各演者から臨床応用の方法、利点などについて述べられた。そして、最後に司会の田中教授が、ニトログリセリンは心筋そのものに作用せず、冠動脈を拡張したうえで、全身血管の拡張をきたし、しかも、特筆すべき副作用も認められず、今後、安心して用いられる血管拡張薬となるものと、期待するとまとめられた。

会の最終に、総会議事が催され第3回本会は、群馬県前橋市において久留米大学 無敵剛介会長

のもとに、行われること、第4回は北里大学 田中亮教授を会長として行われることが決定された。また、本会会計報告がなされ承認された。本会は、比較的特殊な領域での研究課題を、とり扱いながら、しかも薬理、生理、外科、MEなど、との関連性がきわめて強く、非常に多くの専門家の意見を参考にしなければならないことから、現在の評議員数では会の運営が必ずしも十分に行うことができない。しかし、評議員をあまりに多く各関連分野の方々に、依頼申し上げることに制約があり、顧問依頼を各方面にはいかかか、という案が昼食事の評議員会で提出され、次期無敵会長にこの方面の検討をしていただくこととなった。

以上、第2回循環制御研究会は、無事終了したが、討論演題の選定が適切であったか、会全体に、しまりがなかったのではないかと、この会をお世話申し上げた側では反省を深くしている。

しかし、今から20~30年前の学会のように、十分討論ができたことは、何よりと思えた。

（なお、研究発表の詳細は、雑誌「循環制御」に掲載予定）